

部局における教育・研究・診療・産学連携・社会貢献・国際化における特筆すべき取組と成果

(1) 特筆すべき教育活動の取組と成果（大学教育改革の支援プログラム（GP等）の採択状況と取組、グローバルCOE等の大型プロジェクトの採択・実施状況などを含む。）

1. 薬剤師認定制度認証機構より認証されたMCS (Master of Clinical Science) コースを継続した。平成23年度はのべ221名（薬剤師70名）の参加があり、6名に講義課程修了を認定した。
2. 平成23年度 大学教育研究特別整備費（文部科学省）において「薬学専攻博士課程（4年制）設置に伴う薬物療法最適化基盤研究・教育カリキュラムの充実化」が採択され、次世代シーケンサーおよび高精度質量分析装置からなる「先進ゲノム・メタボローム薬学解析システム」を導入することとした。
3. 平成24年度医薬品等審査迅速化事業（厚労省）として「革新的医薬品・医療機器・再生医療製品実用化促進事業」に採択され、医薬品医療機器総合機構および国立医薬品食品研究所との人材交流を含め、ゲノム薬理を中心としたレギュラトリーサイエンスの教育研究を開始した。（医学系研究科、大学病院とともに実施）
4. 特別教育研究経費「高度医療を担う次世代型専門薬剤師育成のための実践的臨床薬学教育システム構築」（平成20～24年度）を引き続き推進した。

(2) 特筆すべき研究・診療・産学連携活動の取組と成果

以下に示す各種プロジェクト研究を進展した。

- ・文部科学省最先端研究基盤事業「化合物ライブラリーを活用した創薬等先端研究・教育基盤事業の整備」（医学系研究科とともに実施）
- ・平成24年度文部科学省創薬等支援技術基盤プラットフォーム「大型創薬研究基盤を活用した創薬オープンイノベーションの推進」（医学系研究科とともに実施）
- ・日本学術振興会最先端・次世代研究開発支援プログラム（2件）
- ・2件のGCOEプログラム（「Network Medicine 創生拠点」および「環境激変への生態系適応に向けた教育研究」への参画）
- ・文部科学省科学研究費補助金新学術領域RNA制御学（領域代表）

(3) 特筆すべき社会貢献、国際化等の活動の取組と成果

1. ラジオアイソトープ研究教育センターでは、東京電力福島第一原子力発電所事故による宮城県子供の被ばく線量調査研究を実施した。ラジオアイソトープ研究教育センターでは宮城県南部地区（丸森町及び白石市越河地区）の放射線調査を開始し、当該地域の子供の個人被ばく線量の測定事業を開始した。調査対象人数は850人に達し、測定結果を各家庭に通知するとともに、被ばく線量の時間経過による変化、放射性セシウムの中移行が被ばく線量に及ぼす影響並びに除染による被ばく線量低減効果の調査を行なっている。本調査の一部は一般社団法人国立大学協会震災復興・日本再生支援採択事業からの支援により実施している。

また、上記の被ばく線量の測定結果の通知を通して住民とのリスク・コミュニケーションを行なうとともに、日本保健物理学会の「専門家が答える暮らしのQ&A」に回答者として参加し、東京電力福島第一原子力発電所事故により放出された放射性物質による影響等に関して、国民からの質問に客観的事実とデータを基に回答する活動を継続している。

2. 世界展開力強化事業「キャンパスアジア」中核拠点形成支援（平成23～27年度）に参加して、大学院学生の国際交流を支援している。24年度に、本研究科博士課程学生4名が韓国内の大学へ短期または1年間留学した。また、韓国の大学院生2名を本研究へ特別訪問研修生として受け入れた。

(4) その他、特筆すべき活動等の取組と成果**1. 附属薬用植物園の活動**

附属薬用植物園ではホームページ (<http://www.pharm.tohoku.ac.jp/~yakusoen/index.html>)を通じて薬用植物や有毒植物の知識を発信するとともに、インターネットによる訪問希望にも可能な限り対応して市民に公開している。また、「日本薬用植物友の会」（会員数：約300名）を組織し、会員に薬用植物の観察の場を提供するとともに、友の会が主催する植物観察会や講演会活動を全面的に援助した。国際逐次定期刊行物として登録され、国立国会図書館にも寄贈されている「日本薬用植物友の会会報」の編集でも中心的役割を果たした。「生薬・漢方薬認定薬剤師のための薬用植物園実習」も継続的に実施している。

2. 東北大学薬剤師ネットワークの設立

災害時の緊急対応なども含めて、薬剤師の日常活動や生涯教育等を支援し、さらに薬剤師を目指す学生も含めた人的交流を活性化することを目的として、薬学同窓会と共同で24年2月に東北大学薬剤師ネットワークを設立した。本学部出身の薬剤師および在学学生に、本研究科が開催する講演会/セミナー等の案内や情報交換の場として利用されている。